

6. 筑波大学附属久里浜養護学校との相互協力

これまでの30年にわたる重度・重複障害の教育研究における国立久里浜養護学校との相互協力による実績を踏まえ、国として、喫緊かつ重大な課題である養護学校等における自閉症の教育に資するため、新たに筑波大学の基礎研究と本研究所の実際的な研究との密接な連携による、筑波大学附属久里浜養護学校（以下「学校」という。）更なる協力関係を構築する。

（1）研究活動

プロジェクト研究など、本研究所が実施している各種の研究活動等において、学校を相互研究協力校として、事例研究、実践研究等を行っている。特に、平成15年度～17年度のプロジェクト研究である「養護学校等における自閉症を併せ有する幼児児童生徒の特性に応じた教育的支援に関する研究—知的障害養護学校における指導内容、指導法、環境整備を中心に—」においては、学校と緊密な連携を図り、日々の指導にも本研究所の研究職員がかかわりながら、自閉症児の指導に有効な指導内容・方法及び教材・教具の開発を目指している。

また、学校が、教育実践や研究成果の普及を目的として全国の特殊教育関係者を対象に、毎年実施している教育実践研究協議会には、本研究所の研究職員が講師や指導・助言者として参画している。

（2）入学希望者に関する資料の収集と提供

本研究所の教育相談センターが窓口となり、学校に入学を希望する幼児児童に対して、医師による診察、研究職員等による諸検査や行動観察等を行い、それらの結果をとりまとめた各種の資料を学校に提供している。

学校では、それらの結果を参考にしながら、入学者を決定している。また、それらの資料を、一人一人の幼児児童の詳細な実態把握や個別の指導計画の作成の際に積極的に活用している。

（3）指導研究協議会

学校の教職員と本研究所の研究職員が、定期的に合同の協議会を開催している。これは、研究所の研究職員が、学校の各教室で行われる指導や研究活動等について、指導・助言を行ったり、最新の特殊教育に関する情報を提供したりすることを通じて、教職員の資質向上に寄与することを目的に行っているものである。